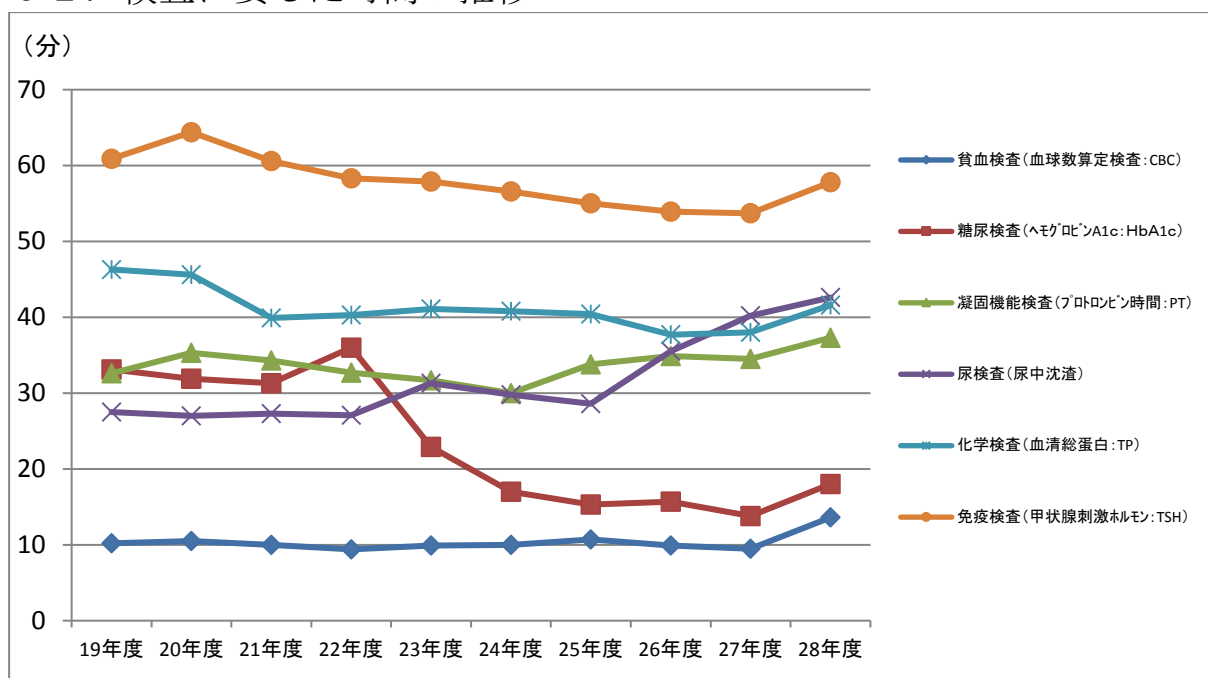


9 2. 検査に要した時間の推移



外来患者における血液や尿などのスクリーニング的に実施される検体検査の結果報告時間の短縮は、患者サービス向上は基より質の高い医療の提供には必須の条件である。

近年、自動分析装置の性能向上やシステム導入も寄与するところはあるが、年々時間短縮傾向にある。平成 27 年度（平成 28 年 1 月）に新検査棟が開設された。それに伴い、データ集計上これまで検体の到着（受取）から検査結果報告の時間であったが、システム導入し、よりの確な時間把握を行うため、採血終了から検査結果報告の時間となった。そのため、グラフ上は、少し遅くなったようには見えるが概ね 60 分以内の検査結果報告は実施できている。数値は、あくまでも平均報告時間の数値であり、検体の中には再検査等により 1.5 倍程度の時間を要する検査も存在する。今後、いかに多くの検体を 1 時間以内に結果報告ができるかが課題である。

データ提供 臨床検査部